

医療系大学在学中の学生の自己教育力の推移

多久島寛孝 永田華千代 北野正文 三村孝俊
内山久美 梅橋操子 大澤早苗 嶋田かをる
亀山亜弓 古賀和子 川本起久子 山口裕子
吉田一子 弓掛和恵 西谷美幸 田中英子
古庄富美子 山本勝則 井上悦子

医療系大学の2年次に在籍する学生を対象に、入学後の自己教育力の育成の推移を調査するため、1年次実習前・後および2年次実習前・後に自己教育力調査を実施した。調査結果をもとに、①1年次実習後調査と2年次実習前、②2年次実習前・後、③1年次実習前と2年次実習後の調査を比較した。

その結果、以下の点が明らかになった。

- 1) 1年次実習後と2年次実習前の比較においては、両学科共に、自己教育力の4側面（Ⅰ. 成長・発展への志向、Ⅱ. 自己の対象化と統制、Ⅲ. 学習の技能と基盤、Ⅳ. 自信・プライド・安定感）の全てにおいて有意差のある側面はなかった。
- 2) 2年次実習前・後の比較では、衛生技術学科では、4側面全てにおいて有意差はなかった。看護学科においては、側面Ⅰ「成長・発展への志向」が有意に低下した。
- 3) 1年次実習前と2年次実習後のほぼ入学後1年間の推移では、衛生技術学科では、4側面全てにおいて有意差はなかった。看護学科においては、側面Ⅳ「自信・プライド・安定感」が有意に上昇した。
- 4) 4側面に含まれる項目ごとに比較した結果では、衛生技術学科、看護学科共に各側面を構成するいくつかの項目に有意差が見られた。

キーワード：自己教育力，衛生技術学科，看護学科，実習

I. はじめに

大学の教育改革が加速するなか、中央教育審議会大学分科会は、『我が国の高等教育の将来像（審議の概要）』（平成16年9月答申）で次のように述べている。“「初等教育中等教育から高等教育までそれぞれが果たすべき役割を踏まえて」、「初等中等教育は・・・自己教育力・・・を重視する流れにある」 「高等教育は・・・国際的な標準での質の保証が今後の課題となっていることから、一定の水準を確保することが強く要請される」。これをそのまま解釈すれば、高等教育では、自己教育力よりも一定の技能を身につけさせることが重要であるとしているようにも思える。それは大学における「学力の低下」（『多様化した学生に対応した教育改革』）や大学審

議会の答申（『21世紀の大学像と今後の改革について－競争的環境の中で個性が輝く大学－（答申）（平成10年10月26日）』）が『厳格な成績評価』の必要性を強調したことを受けての答申のようにも考えることができる。しかし、高等教育において一定の水準を確保することが強く要請されるとしても、近年一貫して支持されてきている生涯学習の考えからすると、自己教育力の育成は初等中等教育だけで考えることは難しい。中央教育審議会大学分科会（平成16年9月）は、「学生の学ぶ意欲や目的意識を刺激することも求められる」と述べており、森田ら¹⁾は、学習意欲（学ぶ意欲、学習への動機づけ）や達成動機などは自己教育力と関連があるとしている。梶田²⁾も自己教育力の4側面（側面Ⅰ. 成長・発展への志向、側面Ⅱ. 自己の対象化と統制、側面Ⅲ.

学習の技能と基盤，側面Ⅳ．自信・プライド・安定性)の一つである側面Ⅰ。「成長・発展への志向」に学習意欲を取上げている。つまり，高等教育においても，自己教育力の一部である学ぶ意欲は重視される必要がある。

さらに，大学全入時代を直前にして多様な学生が入学し，「学び方の知識と技能」が十分身につけていない学生もいる。また，現代の若者の「自己統制」の弱さはよく指摘されることである。梶田は，これらの項目を，「自己教育」に含めている。つまり，高等教育が一定の水準を確保する必要があるとしても，それを支える自己教育力の向上は，高等教育においてなお重要な課題である。

このような問題意識から，我々は大学における自己教育力の問題に取り組んでいる。その取り組みと成果の一部は，2003年度に西谷ら³⁾や梅橋ら⁴⁾が報告した。本研究は，先に梅橋らが報告した実習の自己教育力への影響に関する調査を引き続き縦断的に調査したものの一部であり，2003年9月～10月の1年次実習前・後の調査から2004年4月～5月の2年次実習前・後の調査までの推移について検討するものである。

Ⅱ. 1年次調査から2年次調査までの経緯について

本学における2003年度入学生の1年次実習から2年次実習までの間の経緯について大略を述べる。

衛生技術学科では，1年次9月の実習（検査学入門）以後，専門基礎科目を中心に講義，並行して10月から1月までの期間に4科目の実習（化学実習，

生化学実習，解剖学実習，生理学実習）を1年次に行われている。その後春季休暇を経て，2年次4月から5月にかけて2科目（微生物学実習，病理検査学実習Ⅰ）の実習が行われた。これらは専門科目実習を学ぶ上でその基礎となる知識や技術を学ばせるための先行科目であり，知識・技術の修得が厳しく要求される実習であった。

看護学科では，見学実習である1年次9月の早期体験実習（基礎看護実習Ⅰ）以後は，専門基礎科目を中心とした講義があり，その後春季休暇を経て1年次を修了した。2年次4月の実習（基礎看護実習Ⅱ）においては，初めて臨地の場で受け持ち患者を担当し，それぞれ排泄の介助，入浴の介助，食事の介助といった日常生活の援助を実施する実習を経験した。本研究においては，この1年次9月の実習前・後と2年次4～5月の実習前・後に調査を実施した（図1）。

Ⅲ. 用語の定義

自己教育力：自己教育力とは，自ら学び自己を成長させていく力を言い，以下の4つの側面から構成される（梶田，自己教育への教育，p. p. 36-53）。

- ①成長・発展への志向（達成・向上への意欲，目標の感覚と意識）
- ②自己の対象化と統制（自己の認識と評価力）
- ③学習の技能と基盤（学び方の知識と技能，基本的な知識・理解・技能）
- ④自信・プライド・安定性

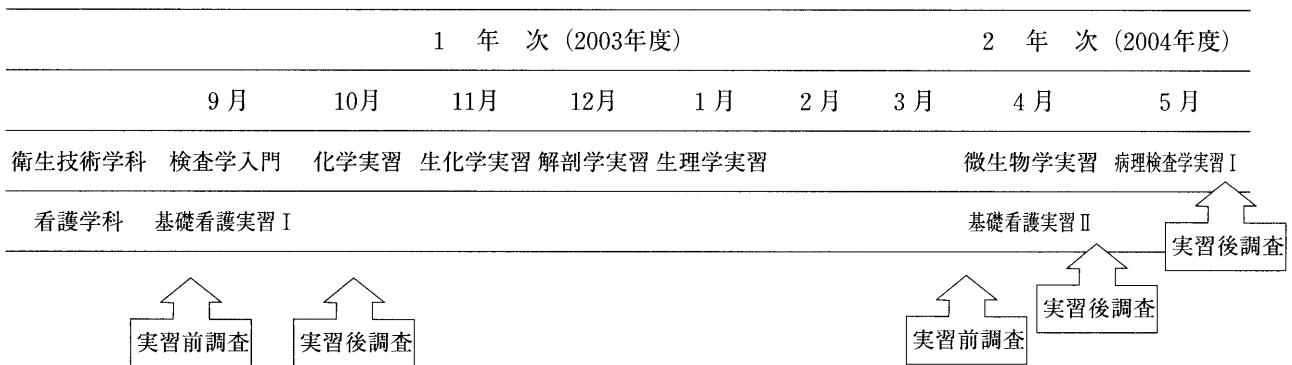


図1 1年次調査から2年次調査までの経緯について

Ⅳ. 方 法

1. 調査対象

2003年度に熊本保健科学大学保健科学部（以下、本学）に入学した保健科学部の衛生技術学科および看護学科に在籍している学生。

2. 調査方法

1) 2003年9月に実習前の調査を、10月に実習後の調査を実施した。調査対象者数は次のとおりである。

(1) 衛生技術学科

実習前109名

(男子32名, 女子69名, 性別不明8名)

実習後110名

(男子26名, 女子73名, 性別不明11名)

(2) 看護学科

実習前108名

(男子6名, 女子94名, 性別不明8名)

実習後108名

(男子6名, 女子96名, 性別不明6名)

尚, この1年次の調査結果については, 既に報告した⁴⁾。

2) 2004年の3月～4月に実習前のアンケート調査を, 5月に実習後のアンケート調査を無記名で実施した。調査対象者数は, 次のとおりである。

(1) 衛生技術学科

実習前112名

(男子25名, 女子74名, 性別不明13名)

実習後116名

(男子29名, 女子76名, 性別不明11名)

(2) 看護学科

実習前105名

(男子6名, 女子87名, 性別不明12名)

実習後89名

(男子7名, 女子76名, 性別不明6名)

2004年の実習の影響および入学後1年間の推移として, 前回実施した調査結果も合わせて対象とした。

尚, 看護学科の実習後の対象者数が極端に少なくなっているのは, 実習終了時が学生によって異なり, 実習後一堂に会す機会があった学生を対象に調査を実施したためである。

3. 調査内容

今回使用した調査用紙は, 対象学生に2003年の調査で使用した調査用紙と同一のものである。この調査用紙は, 梶田⁵⁾が作成した側面Ⅰ, ⅡおよびⅣに関する30項目の「自己教育力調査票」に西村ら⁶⁾が追加した側面Ⅲに関する10項目を加えた計40項目の調査票である(表1)。アンケートの回答方式は前回と同じく, 「はい・いいえ」の2件法とし, 「はい」に1点, 「いいえ」には0点を配し, 数量化した。ただし, 逆転項目は逆配点とした。

4. 分析方法

前回および今回の調査結果を各学科の実習前後に分けて集計した。各4回の調査結果を側面別, 項目別に集計し, 集計結果を変数として2群間の比較を行った。統計的解析方法として, 2群間の比較では各変数の正規性の検定を行い, 正規性が棄却されたため Mann-Whitney's U test を行った。統計的有意水準はすべて5%とした。統計処理には, SPSS 11.5 for Windows を用いた。

5. 倫理的配慮

アンケート調査にあたっては, 調査の趣旨, 調査への参加は自由であること, また学籍番号や氏名の記入はなく無記名での提出であり, 個人が特定されないなどプライバシーは保護されることを, 文書および口頭で説明し, 同意の得られた学生の調査票を対象とした。

Ⅴ. 結 果

1. 側面別比較

1) 1年次実習後および2年次実習前調査の比較
1年次実習後および2年次実習前調査の比較では, 両学科とも有意差のある側面はなかった(表2, 3)。

2) 2年次実習前・後の比較

2年次実習前・後の比較では, 看護学科の側面Ⅰ, 「成長・発展への志向」の平均点が, 実習前の7.65 (±1.51) から実習後の7.22 (±1.6) へ有意に低下した。看護学科のその他の3側面および衛生技術学科の4側面については, 今回の実習前・後では有意差は生じなかった(表2, 3)。

表1 自己教育力調査票

以下の項目について、当てはまるものに丸をしてください。1～40の質問については「はい」または「いいえ」のいずれかに丸をしてください。

学科 (衛生技術学科 看護学科)

性別 (男 女)

1. 自分の能力を最大限にのばすよう、いろいろ努力したい (はい いいえ)
2. たとえ認められなくても、自分の目標に向かって努力したい (はい いいえ)
3. 自分でなければやれないことをやってみたい (はい いいえ)
4. 自分がやりはじめたことは最後までやりとげたい (はい いいえ)
5. 将来、他の人から尊敬される人間になりたい (はい いいえ)
6. 社会に出てからよい仕事をし、多くの人に認められたい (はい いいえ)
7. これから専門的な資格や学位をとりたい (はい いいえ)
8. いったい何のために勉強するのだろうか、といやになることがある (はい いいえ)
9. ほんやりと何も考えずにすごしてしまうことが多い (はい いいえ)
10. 人の一生は結局偶然のことで決まると思う (はい いいえ)
11. 自分のよくないところを自分で考え直すよう、いつも心がけている (はい いいえ)
12. 自分の考えや行動が批判されても腹を立てない (はい いいえ)
13. 自分のよいところと悪いところがよくわかっている (はい いいえ)
14. 他の人から欠点を指摘されると自分でも考えてみようとする (はい いいえ)
15. できるだけ自分をおさえて、他の人に合わせようとしている (はい いいえ)
16. 腹が立ってもひどいことを言ったりしないように注意している (はい いいえ)
17. 疲れている時には、何もしたくない (はい いいえ)
18. テレビを見てしまって、勉強がやれないことが多い (はい いいえ)
19. ちょっといやなことがあると、すぐに不機嫌になる (はい いいえ)
20. いやになった時でも、もうちょっとだけ、もうちょっとだけ、と頑張ろうとする (はい いいえ)
21. 自分の調べたいことがある時に、図書館(室)を利用している (はい いいえ)
22. 自分の調べたいことについて文献検索をしていくことができる (はい いいえ)
23. 他の人の話を聞いたり本を読む時、内容を振り返りまとめてみる習慣がある (はい いいえ)
24. 考えを深めたり、広げたりするのに話し合いや討議が有効であると考えている (はい いいえ)
25. 考えていることを筋道たてて書いたり、伝えたりできる (はい いいえ)
26. たとえ話などを用いて人にわかりやすく、説明するのが苦手である (はい いいえ)
27. 自己評価する時には、自分の目標にてらして行っている (はい いいえ)
28. 自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく習慣がある (はい いいえ)
29. わからないことがあると、すぐ人に聞くのが効率的と思う (はい いいえ)
30. 取り組みたいことによって、それにあった学習方法や手続きを選べる (はい いいえ)
31. 今のままの自分ではいけないと思うことがある (はい いいえ)
32. 他の人にばかにされるのは、がまんできない (はい いいえ)
33. ときどき、自分自身がいやになる (はい いいえ)
34. 何をやってもだめだと思う (はい いいえ)
35. 自分のことを、はずかしいと思うことがある (はい いいえ)
36. 今の自分が幸せだと思う (はい いいえ)
37. 自分のやる事に自信を持っている方だと思う (はい いいえ)
38. 生まれ変わるとしたなら、やはり今の自分に生まれたい (はい いいえ)
39. 今の自分に満足している (はい いいえ)
40. 自分にもいろいろとりえがあると思う (はい いいえ)

ご協力ありがとうございました。

表2 側面別分析 (衛生技術学科)

	1年次実習前	1年次実習後	2年次実習前	2年次実習後
側面Ⅰ	7.90±1.21	7.82±1.22	7.92±1.32	7.79±1.52
側面Ⅱ	5.67±1.70	5.89±1.87	5.96±1.66	5.97±1.77
側面Ⅲ	5.50±1.95	5.87±2.12	5.57±2.19	5.61±2.13
側面Ⅳ	4.22±2.24	4.91±2.45	5.04±2.28	4.77±2.31

Mann-Whitney's U test mean ± SD
(中央値の検定であるが、表中の数字は平均値を示す)

表3 側面別分析 (看護学科)

	1年実習前	1年実習後	2年実習前	2年実習後
側面Ⅰ	7.42±1.52	7.36±1.49	7.65±1.51	7.22±1.60
側面Ⅱ	5.55±1.70	5.60±1.65	5.59±1.69	5.70±1.73
側面Ⅲ	4.82±2.01	5.22±2.26	5.41±2.20	5.30±2.04
側面Ⅳ	4.07±1.70	4.31±1.87	4.39±1.88	4.54±1.85

Mann-Whitney's U test *p<0.005 mean ± SD
(中央値の検定であるが、表中の数字は平均値を示す)

3) 1年次実習前調査と2年次実習後調査の比較
 ほぼ入学後1年間の推移として、1年次実習前調査と2年次実習後調査の比較を行った結果、看護学科の側面Ⅳ。「自信・プライド・安定感」の平均点が、1年次実習前の4.07 (±1.7) から2年次実習後の4.54 (±1.85) へ有意に上昇した。看護学科のその他の3側面および衛生技術学科の4側面については、前回の実習前と今回の実習後では有意差は生じなかった (表2, 3)。

2. 項目別の比較

1) 1年次実習後調査と2年次実習前調査の比較

1年次実習後と2年次実習前調査の比較では、衛生技術学科で側面Ⅲの「29. わからないことがあると、すぐに人に聞くのが効果的だと思う」の平均点が、1年次実習後の0.73 (±0.45) から2年次実習前の0.59 (±0.49) へ有意に低下した。他の項目や看護学科においては、有意差のある項目は生じなかった (表4, 5)。

2) 2年次実習前・後の比較

2年次実習前・後の比較では、衛生技術学科では、側面Ⅳの「31. 今のままの自分ではいけない、と思うことがある」(逆転項目)の平均点が、実習前の0.09 (±0.29) から実習後0.03 (±0.16) へ、同じく側面Ⅳの「38. 生まれ変わるとしたなら、やはり今の自分に生まれたい」の平均点が、実習前の0.59 (±0.49) から実習後の0.46 (±0.5) へ、それぞれ有意に低下した。

看護学科では側面Ⅲの「26. たとえ話などを持ちいて人にわかりやすく、説明するのが苦手である」(逆転項目)の平均点が、実習前の0.39 (±0.49) から実習後の0.23 (±0.42) へ有意に低下した (表6, 7)。

3) 1年次実習前調査と2年次実習後調査の比較

ほぼ入学後1年間の推移として、1年次実習前調査と2年次実習後調査の比較を行った。衛生技術学科では、側面Ⅱの「11. 自分のよくないところを自分で考え直すよう、いつも心がけている」の平均点が、1年次実習前の0.69

表 4 1 年次実習後調査と 2 年次実習前調査の比較
(衛生技術学科)

	衛生技術学科				p 値
	1 年次実習後		2 年次実習前		
	平均	SD	平均	SD	
項目 1	0.97	0.16	0.99	0.09	0.310
項目 2	0.91	0.29	0.88	0.32	0.525
項目 3	0.95	0.23	0.94	0.24	0.788
項目 4	0.98	0.13	0.99	0.09	0.557
項目 5	0.87	0.33	0.86	0.34	0.842
項目 6	0.92	0.27	0.88	0.32	0.382
項目 7	0.96	0.19	0.98	0.13	0.403
項目 8	0.37	0.48	0.47	0.5	0.117
項目 9	0.32	0.47	0.33	0.47	0.775
項目 10	0.57	0.5	0.59	0.49	0.743
側面 I	7.82	1.22	7.92	1.32	0.383
項目 11	0.8	0.4	0.85	0.36	0.379
項目 12	0.41	0.49	0.44	0.5	0.728
項目 13	0.71	0.46	0.74	0.44	0.624
項目 14	0.95	0.23	0.98	0.13	0.147
項目 15	0.67	0.47	0.61	0.49	0.403
項目 16	0.82	0.39	0.85	0.36	0.590
項目 17	0.11	0.31	0.07	0.26	0.339
項目 18	0.41	0.49	0.44	0.5	0.728
項目 19	0.45	0.5	0.49	0.5	0.544
項目 20	0.57	0.5	0.51	0.5	0.412
側面 II	5.89	1.87	5.96	1.66	0.767
項目 21	0.68	0.47	0.56	0.5	0.073
項目 22	0.63	0.48	0.62	0.49	0.823
項目 23	0.38	0.49	0.3	0.46	0.240
項目 24	0.82	0.39	0.88	0.32	0.197
項目 25	0.5	0.5	0.47	0.5	0.641
項目 26	0.37	0.48	0.31	0.47	0.371
項目 27	0.6	0.49	0.66	0.48	0.378
項目 28	0.44	0.5	0.45	0.5	0.940
項目 29	0.73	0.45	0.59	0.49	0.024 *
項目 30	0.72	0.45	0.76	0.43	0.516
側面 III	5.87	2.12	5.57	2.19	0.301
項目 31	0.05	0.23	0.09	0.29	0.309
項目 32	0.63	0.49	0.67	0.47	0.509
項目 33	0.2	0.4	0.26	0.44	0.281
項目 34	0.75	0.44	0.78	0.41	0.551
項目 35	0.38	0.49	0.31	0.46	0.259
項目 36	0.68	0.47	0.72	0.45	0.587
項目 37	0.5	0.5	0.5	0.5	0.893
項目 38	0.54	0.5	0.59	0.49	0.428
項目 39	0.4	0.49	0.31	0.47	0.191
項目 40	0.79	0.41	0.85	0.36	0.282
側面 IV	4.91	2.45	5.04	2.28	0.659
総得点	24.5	5.51	24.48	5.17	0.994

Mann-Whitney's U test

* p<0.05

(中央値の検定であるが、表中の数字は平均値を示す)

表 5 1 年次実習後調査と 2 年次実習前調査の比較
(看護学科)

	看護学科				p 値
	1 年次実習後		2 年次実習前		
	平均	SD	平均	SD	
項目 1	0.97	0.17	0.96	0.19	0.664
項目 2	0.87	0.34	0.92	0.27	0.209
項目 3	0.94	0.25	0.96	0.19	0.388
項目 4	0.95	0.21	0.97	0.17	0.506
項目 5	0.8	0.4	0.8	0.4	0.974
項目 6	0.84	0.37	0.9	0.3	0.174
項目 7	0.97	0.17	0.99	0.1	0.332
項目 8	0.3	0.46	0.38	0.49	0.226
項目 9	0.24	0.43	0.22	0.42	0.736
項目 10	0.49	0.5	0.62	0.49	0.069
側面 I	7.36	1.49	7.65	1.51	0.081
項目 11	0.82	0.38	0.84	0.37	0.786
項目 12	0.4	0.49	0.41	0.49	0.821
項目 13	0.6	0.49	0.69	0.46	0.170
項目 14	0.93	0.26	0.93	0.25	0.848
項目 15	0.65	0.48	0.66	0.47	0.888
項目 16	0.81	0.39	0.85	0.36	0.544
項目 17	0.09	0.29	0.09	0.28	0.878
項目 18	0.22	0.42	0.21	0.41	0.880
項目 19	0.45	0.5	0.35	0.48	0.111
項目 20	0.63	0.49	0.62	0.49	0.901
側面 II	5.6	1.65	5.59	1.69	0.949
項目 21	0.39	0.49	0.48	0.5	0.178
項目 22	0.56	0.5	0.66	0.47	0.141
項目 23	0.37	0.49	0.37	0.48	0.940
項目 24	0.85	0.36	0.85	0.36	0.908
項目 25	0.5	0.5	0.51	0.5	0.889
項目 26	0.36	0.48	0.39	0.49	0.620
項目 27	0.52	0.5	0.59	0.49	0.321
項目 28	0.41	0.49	0.43	0.5	0.710
項目 29	0.57	0.5	0.55	0.5	0.704
項目 30	0.69	0.46	0.63	0.48	0.382
側面 III	5.22	2.26	5.41	2.2	0.503
項目 31	0.01	0.1	0.01	0.1	0.984
項目 32	0.58	0.5	0.56	0.5	0.707
項目 33	0.12	0.33	0.08	0.27	0.291
項目 34	0.68	0.47	0.73	0.45	0.384
項目 35	0.19	0.4	0.2	0.4	0.892
項目 36	0.76	0.43	0.82	0.39	0.303
項目 37	0.4	0.49	0.43	0.5	0.611
項目 38	0.49	0.5	0.48	0.5	0.885
項目 39	0.21	0.41	0.24	0.43	0.633
項目 40	0.86	0.35	0.89	0.31	0.479
側面 IV	4.31	1.87	4.39	1.88	0.634
総得点	22.49	4.2	23.04	4.52	0.200

Mann-Whitney's U test

(中央値の検定であるが、表中の数字は平均値を示す)

表6 2年次実習前・後の比較（衛生技術学科）

	衛生技術学科				p 値
	実習前		実習後		
	平均	SD	平均	SD	
項目1	0.99	0.09	0.97	0.16	0.327
項目2	0.88	0.32	0.92	0.27	0.337
項目3	0.94	0.24	0.95	0.22	0.738
項目4	0.99	0.09	0.99	0.09	0.985
項目5	0.86	0.34	0.82	0.39	0.331
項目6	0.88	0.32	0.83	0.38	0.217
項目7	0.98	0.13	0.99	0.09	0.552
項目8	0.47	0.5	0.42	0.5	0.431
項目9	0.33	0.47	0.38	0.49	0.441
項目10	0.59	0.49	0.6	0.49	0.870
側面I	7.92	1.32	7.79	1.52	0.664
項目11	0.85	0.36	0.85	0.36	0.911
項目12	0.44	0.5	0.44	0.5	0.928
項目13	0.74	0.44	0.8	0.4	0.292
項目14	0.98	0.13	0.98	0.13	0.979
項目15	0.61	0.49	0.59	0.49	0.744
項目16	0.85	0.36	0.81	0.4	0.449
項目17	0.07	0.26	0.09	0.28	0.666
項目18	0.44	0.5	0.44	0.5	0.928
項目19	0.49	0.5	0.45	0.5	0.558
項目20	0.51	0.5	0.57	0.5	0.395
側面II	5.96	1.66	5.97	1.77	0.876
項目21	0.56	0.5	0.5	0.5	0.345
項目22	0.62	0.49	0.65	0.48	0.573
項目23	0.3	0.46	0.37	0.48	0.326
項目24	0.88	0.32	0.89	0.31	0.759
項目25	0.47	0.5	0.53	0.5	0.390
項目26	0.31	0.47	0.34	0.48	0.669
項目27	0.66	0.48	0.64	0.48	0.749
項目28	0.45	0.5	0.45	0.5	0.931
項目29	0.59	0.49	0.56	0.5	0.714
項目30	0.76	0.43	0.75	0.44	0.847
側面III	5.57	2.19	5.61	2.13	0.780
項目31	0.09	0.29	0.03	0.16	0.041 *
項目32	0.67	0.47	0.68	0.47	0.815
項目33	0.26	0.44	0.18	0.39	0.166
項目34	0.78	0.41	0.76	0.43	0.653
項目35	0.31	0.46	0.38	0.49	0.229
項目36	0.72	0.45	0.69	0.47	0.609
項目37	0.5	0.5	0.5	0.5	0.998
項目38	0.59	0.49	0.46	0.5	0.046 *
項目39	0.31	0.47	0.3	0.46	0.816
項目40	0.85	0.36	0.86	0.35	0.808
側面IV	5.04	2.28	4.77	2.31	0.363
総得点	24.48	5.17	24.15	5.66	0.641

Mann-Whitney's U test

* p<0.05

(中央値の検定であるが、表中の数字は平均値を示す)

表7 2年次実習前・後の比較（看護学科）

	看護学科				p 値
	実習前		実習後		
	平均	SD	平均	SD	
項目1	0.96	0.19	0.97	0.18	0.872
項目2	0.92	0.27	0.93	0.25	0.834
項目3	0.96	0.19	0.93	0.25	0.357
項目4	0.97	0.17	0.95	0.21	0.542
項目5	0.8	0.4	0.81	0.4	0.880
項目6	0.9	0.3	0.84	0.37	0.190
項目7	0.99	0.1	0.98	0.15	0.454
項目8	0.38	0.49	0.3	0.46	0.247
項目9	0.22	0.42	0.14	0.35	0.130
項目10	0.62	0.49	0.5	0.5	0.109
側面I	7.65	1.51	7.22	1.6	0.015 *
項目11	0.84	0.37	0.84	0.37	0.935
項目12	0.41	0.49	0.45	0.5	0.568
項目13	0.69	0.46	0.67	0.47	0.747
項目14	0.93	0.25	0.95	0.21	0.517
項目15	0.66	0.47	0.66	0.48	0.949
項目16	0.85	0.36	0.86	0.35	0.733
項目17	0.09	0.28	0.07	0.25	0.638
項目18	0.21	0.41	0.23	0.42	0.820
項目19	0.35	0.48	0.38	0.49	0.593
項目20	0.62	0.49	0.65	0.48	0.707
側面II	5.59	1.69	5.7	1.73	0.494
項目21	0.48	0.5	0.56	0.5	0.295
項目22	0.66	0.47	0.68	0.47	0.788
項目23	0.37	0.48	0.33	0.47	0.605
項目24	0.85	0.36	0.8	0.4	0.451
項目25	0.51	0.5	0.44	0.5	0.360
項目26	0.39	0.49	0.23	0.42	0.016 *
項目27	0.59	0.49	0.63	0.49	0.588
項目28	0.43	0.5	0.48	0.5	0.537
項目29	0.55	0.5	0.6	0.49	0.451
項目30	0.63	0.48	0.63	0.49	0.891
側面III	5.41	2.2	5.3	2.04	0.677
項目31	0.01	0.1	0.03	0.18	0.238
項目32	0.56	0.5	0.61	0.49	0.435
項目33	0.08	0.27	0.07	0.25	0.817
項目34	0.73	0.45	0.64	0.48	0.161
項目35	0.2	0.4	0.17	0.38	0.604
項目36	0.82	0.39	0.79	0.41	0.674
項目37	0.43	0.5	0.55	0.5	0.120
項目38	0.48	0.5	0.55	0.5	0.368
項目39	0.24	0.43	0.34	0.48	0.136
項目40	0.89	0.31	0.87	0.33	0.674
側面IV	4.39	1.88	4.54	1.85	0.488
総得点	23.04	4.52	22.76	4.55	0.659

Mann-Whitney's U test

* p<0.05

(中央値の検定であるが、表中の数字は平均値を示す)

表8 1年次実習前調査と2年次実習後調査の比較
(衛生技術学科)

	衛生技術学科				p 値
	1年次実習前		2年次実習後		
	平均	SD	平均	SD	
項目1	0.97	0.16	0.97	0.16	0.947
項目2	0.91	0.29	0.92	0.27	0.718
項目3	0.92	0.28	0.95	0.22	0.364
項目4	0.97	0.16	0.99	0.09	0.289
項目5	0.88	0.33	0.82	0.39	0.188
項目6	0.94	0.25	0.83	0.38	0.012 *
項目7	0.96	0.19	0.99	0.09	0.160
項目8	0.39	0.49	0.42	0.5	0.588
項目9	0.35	0.48	0.38	0.49	0.598
項目10	0.62	0.49	0.6	0.49	0.756
側面I	7.9	1.21	7.79	1.52	0.946
項目11	0.69	0.47	0.85	0.36	0.003 **
項目12	0.25	0.43	0.44	0.5	0.002 **
項目13	0.8	0.4	0.8	0.4	0.973
項目14	0.95	0.21	0.98	0.13	0.222
項目15	0.65	0.48	0.59	0.49	0.355
項目16	0.85	0.36	0.81	0.4	0.376
項目17	0.08	0.26	0.09	0.28	0.906
項目18	0.38	0.49	0.44	0.5	0.307
項目19	0.43	0.5	0.45	0.5	0.753
項目20	0.59	0.49	0.57	0.5	0.798
側面II	5.67	1.7	5.97	1.77	0.178
項目21	0.69	0.47	0.5	0.5	0.004 **
項目22	0.64	0.48	0.65	0.48	0.876
項目23	0.37	0.49	0.37	0.48	0.937
項目24	0.78	0.42	0.89	0.31	0.018 *
項目25	0.48	0.5	0.53	0.5	0.426
項目26	0.35	0.48	0.34	0.48	0.881
項目27	0.49	0.5	0.64	0.48	0.021 *
項目28	0.39	0.49	0.45	0.5	0.312
項目29	0.66	0.48	0.56	0.5	0.144
項目30	0.69	0.47	0.75	0.44	0.321
側面III	5.5	1.95	5.61	2.13	0.704
項目31	0.03	0.16	0.03	0.16	0.947
項目32	0.59	0.49	0.68	0.47	0.156
項目33	0.14	0.35	0.18	0.39	0.361
項目34	0.71	0.45	0.76	0.43	0.462
項目35	0.19	0.4	0.38	0.49	0.002 **
項目36	0.65	0.48	0.69	0.47	0.572
項目37	0.46	0.5	0.5	0.5	0.581
項目38	0.44	0.5	0.46	0.5	0.754
項目39	0.26	0.44	0.3	0.46	0.492
項目40	0.77	0.42	0.86	0.35	0.087
側面IV	4.22	2.24	4.77	2.31	0.094
総得点	23.29	4.84	24.15	5.66	0.234

Mann-Whitney's U test

* p<0.05 **p<0.01

(中央値の検定であるが、表中の数字は平均値を示す)

表9 1年次実習前調査と2年次実習後調査の比較
(看護学科)

	看護学科				p 値
	1年次実習前		2年次実習後		
	平均	SD	平均	SD	
項目1	0.94	0.23	0.97	0.18	0.476
項目2	0.88	0.33	0.93	0.25	0.230
項目3	0.93	0.26	0.93	0.25	0.874
項目4	0.94	0.25	0.95	0.21	0.559
項目5	0.81	0.4	0.81	0.4	0.982
項目6	0.86	0.35	0.84	0.37	0.713
項目7	0.95	0.21	0.98	0.15	0.394
項目8	0.31	0.47	0.3	0.46	0.770
項目9	0.21	0.41	0.14	0.35	0.165
項目10	0.59	0.49	0.5	0.5	0.196
側面I	7.42	1.52	7.22	1.6	0.267
項目11	0.77	0.42	0.84	0.37	0.208
項目12	0.34	0.48	0.45	0.5	0.111
項目13	0.61	0.49	0.67	0.47	0.391
項目14	0.97	0.17	0.95	0.21	0.508
項目15	0.62	0.49	0.66	0.48	0.576
項目16	0.81	0.39	0.86	0.35	0.359
項目17	0.07	0.26	0.07	0.25	0.874
項目18	0.27	0.49	0.23	0.42	0.508
項目19	0.48	0.5	0.38	0.49	0.174
項目20	0.59	0.49	0.65	0.48	0.431
側面II	5.55	1.7	5.7	1.73	0.357
項目21	0.44	0.5	0.56	0.5	0.091
項目22	0.56	0.5	0.68	0.47	0.095
項目23	0.31	0.47	0.33	0.47	0.827
項目24	0.79	0.41	0.8	0.4	0.763
項目25	0.47	0.5	0.44	0.5	0.686
項目26	0.38	0.49	0.23	0.42	0.025 *
項目27	0.46	0.5	0.63	0.49	0.024 *
項目28	0.31	0.47	0.48	0.5	0.021 *
項目29	0.55	0.5	0.6	0.49	0.432
項目30	0.55	0.5	0.63	0.49	0.301
側面III	4.82	2.01	5.3	2.04	0.111
項目31	0.02	0.14	0.03	0.18	0.493
項目32	0.59	0.49	0.61	0.49	0.765
項目33	0.06	0.23	0.07	0.25	0.715
項目34	0.67	0.47	0.64	0.48	0.658
項目35	0.22	0.42	0.17	0.38	0.389
項目36	0.77	0.42	0.79	0.41	0.681
項目37	0.35	0.48	0.55	0.5	0.007 **
項目38	0.43	0.5	0.55	0.5	0.108
項目39	0.15	0.36	0.34	0.48	0.002 **
項目40	0.84	0.37	0.87	0.33	0.506
側面IV	4.07	1.7	4.54	1.85	0.032 *
総得点	21.86	3.93	22.76	4.55	0.070

Mann-Whitney's U test

* p<0.05 **p<0.01

(中央値の検定であるが、表中の数字は平均値を示す)

(± 0.47) から2年次実習後の0.85 (± 0.36)へ、同じく側面Ⅱの「12. 自分の考えや行動が批判されても腹を立てない」の平均点が、1年次実習前の0.25 (± 0.43) から2年次実習後の0.44 (± 0.5)へ、それぞれ有意に上昇した。また、側面Ⅲの「24. 考えを深めたり、広げたりするのに話し合いや討議が有効であると考えている」の平均点が、1年次実習前の0.78 (± 0.42) から2年次実習後の0.89 (± 0.31)へ、同じく側面Ⅲの「27. 自己評価する時には、自分の目標にてらして行っている」の平均点が、1年次実習前の0.49 (± 0.5) から2年次実習後の0.64 (± 0.48)へ、側面Ⅳの「35. 自分のことを、はずかしいと思うことがある」(逆転項目)の平均点が、1年次実習前の0.19 (± 0.4) から2年次実習後の0.38 (± 0.49)へ、それぞれ有意に上昇した。

一方、側面Ⅰの「6. 社会に出てからよい仕事をし、多くの人に、認められたい」の平均点が、1年次実習前の0.94 (± 0.25) から2年次実習後の0.83 (± 0.38)へ、側面Ⅲの「21. 自分の調べたいことがある時に、図書館(室)を利用している」の平均点が、1年次実習前の0.69 (± 0.47) から2年次実習後の0.5 (± 0.5)へ、それぞれ有意に低下した(表8)。

看護学科では、側面Ⅲの「27. 自己評価する時には、自分の目標にてらして行っている」の平均点が、1年次実習前の0.46 (± 0.5) から2年次実習後の0.63 (± 0.49)へ、「28. 自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく習慣がある」の平均点が、1年次実習前の0.31 (± 0.47) から2年次実習後の0.48 (± 0.5)へ、側面Ⅳの「37. 自分のやる事に自信を持っている方だと思う」の平均点が、1年次実習前の0.35 (± 0.48) から2年次実習後の0.55 (± 0.5)へ、同じく側面Ⅳの「39. 今の自分に満足している」の平均点が、1年次実習前の0.15 (± 0.36) から2年次実習後の0.34 (± 0.48)へ、それぞれ有意に上昇した。

一方、側面Ⅲの「26. たとえ話などをもちいて人にわかりやすく、説明するのが苦手である」(逆転項目)の平均点は、1年次実習前の0.38 (± 0.49) から2年次実習後の0.23 (± 0.42)へと有意に低下した(表9)。

Ⅵ. 考 察

1. 実習の影響について

1) 1年次実習後から2年次実習前調査の比較

側面別の比較では、衛生技術学科、看護学科共に有意差のあるものはなかった。衛生技術学科においては側面Ⅲを構成する項目である「29. わからないことがあると、すぐに人に聞くのが効果的だと思う」が有意に下がっていた。側面Ⅲは学校教育で直接的に形成される具体的な形での学力であり、「学び方との知識と技能」を身につけ、「基礎的な知識・理解・技能」をきちんと修得するという観点から考えるものであり、自立的な学習を進めていく土台であるとされる(梶田, 自己教育への教育, p. p. 45-47)。1年次実習後から2年次実習前調査の比較において、「29. わからないことがあると、すぐに人に聞くのが効果的だと思う」が有意に下がっていたことは、他の学生に依存するのではなく、自ら解決しようとする姿勢がうかがえる。こうした点は、マイナスではなくプラスの面と考慮してもよいと考える。特に、衛生技術学科では、前回の調査後から1年次の間に実習を4回経験しており、またその実習の形態が、他者を頼ることのできない形の実習であったことから、実習が個人の自立を支える側面があったと考えることができる。看護学科では、前回の実習後調査と今回の実習前調査の間の期間は、講義・春季休暇と続いており、学習に大きな影響を与える要因は少なかったと思える。そのために、有意差のある側面や項目はなかったと思え、その意味においても自己教育力に対する実習の影響は大きいことが推測できる。

2) 2年次実習前・後の調査の比較

2年次実習前・後の比較では、看護学科の側面Ⅰ「成長・発展への志向」が有意に低下した。また、平均点の推移で見ると、衛生技術学科においても側面Ⅰ「成長・発展への志向」の平均点が下がった。

側面Ⅰである「成長・発展への志向」は、自分自身の行動や技能の領域やレパトリーが、より広いもの、より高度なものとなれるよう願うといった構えをもつこと、また現在あるがままの姿から脱皮して、少しでも優れた存在へと

自分自身を引き上げていく、といった志向性を持つことであり、これがなければ自立も自己教育もほとんど意味を持たないとされる(梶田, 自己教育への教育, p. 38)。実習を境に、看護学科で有意に側面Ⅰが低下したことは、何らかの影響があることは予想されるが、西村ら⁶⁾が日本赤十字社幹部看護婦研修所の入学生に行った調査においても同様に入学時・中間期・卒業時と従うにつれて側面Ⅰは低下している。今回の結果では、側面Ⅰを構成する項目に有意差はなかったことから直接的な判断はできず、また今後の推移の予想はつかない。しかし、少なくとも西村らと同様の結果を示したことは、実習そのものが側面Ⅰの得点の低下の傾向には関係していないとも推測できる。また、この側面は、学習意欲と関わっているものであり、今後も推移を見守る必要がある。

有意差はなかったが、看護学科で側面Ⅲ。「学習の技能と基盤」の平均点が下がり、衛生技術学科では、側面Ⅳ。「自信・プライド・安定感」が下がった。その構成する項目を見ると、看護学科では側面Ⅲの「26. たとえ話などをもちいて人にわかりやすく、説明するのが苦手である」(逆転項目)が有意に下がっており、衛生技術学科では、側面Ⅳの「31. 今のままの自分ではいけない、と思うことがある」(逆転項目)、「38. 生まれ変わるとしたなら、やはり今の自分に生まれたい」が有意に下がっている。これらの項目で有意差が出たことは、看護学科で他者へ説明するのが苦手と感じている学生が増えたことを示す。それは、この実習が初めて受け持ち患者を担当し、日常生活の援助を行う実習であったこと。そして、直接影響を受ける患者への準備として、その患者に実施する援助の根拠、目的、注意事項を自ら学んでおくといった事前学習は欠くことのできないものであったこと。それを自分の言葉で表現できないことは受け持ち患者に果たす責任がとれない面もあった。また、そうした学生の援助の際に関わるスタッフは、学生の援助を受ける患者の身の安全に責任があり、そうした学生の自己学習に対する直接的な影響が大きい。以上の点からもこうした項目が有意に出てきたことは、自己学習に影響を与えるものであり、実習の影

響が大きいと推測できる。

また、衛生技術学科では側面Ⅳの平均点が低下した。側面Ⅳを構成する項目のうちで有意差のあったものから考えると、「今のままの自分ではいけない」と思う学生が多くなり、「今の自分に生まれたい」と思う学生が少なくなるという自己否定的な側面、つまり自尊感情の低下の傾向が強くなっていた。側面Ⅳは、他の3つの側面を深いところにおいて支えるものであり、自信を持っているかどうか、心理的に安定しているかどうかによって人は主体的であるかが決定されるとしている(梶田, 自己教育力への教育, p. 48)。北⁷⁾の報告では、因子分析の結果、自己教育力を構成する因子の第一因子として「自己肯定因子」を抽出し、同じく大橋ら⁸⁾や本田ら⁹⁾の報告では、「プライド因子」を第一因子として抽出しており、側面Ⅳが自己教育力の中で重要な側面であることを示している。これらのことから、2年次実習前・後の調査において、側面Ⅳ。「自信・プライド・安定感」が低下し、自己否定の面が強くなったことは、学生が実習の中で、どのようにしてそういう感情を抱くのか詳細に目を向けていく必要がある。今回の結果からは、軽々に論じることができないが、実習の進捗の過程で、学生が悩みを抱えたまま解決できずにいることも推測でき、学習に関する学生の理解の到達度の正確な把握や心理的な面で学生の抱えている課題に目を向けるなど学生の現状についても把握する必要がある。

2. 入学後1年の推移について

ほぼ入学後1年間の推移として、1年次実習前調査と2年次実習後調査の比較を行った。

衛生技術学科では、側面別分析では有意差はなかった。項目別では、側面Ⅱを構成している「11. 自分のよくないところを自分で考え直すよう、いつも心がけている」、「12. 自分の考えや行動が批判されても腹を立てない」、側面Ⅲを構成している「24. 考えを深めたり、広げたりするのに話し合いや討議が有効であると考えている」、「27. 自己評価する時には、自分の目標にてらして行っている」、側面Ⅳを構成している「35. 自分のことを、はずかしいと思うことがある」(逆転項目)が有意に上昇した。

側面Ⅱは、自分自身の現状と可能性、課題等を認識し、そして自分自身が選びとった方向へ自分自身が働きかけるという構えと能力とされる（梶田、自己教育への教育、p.p.41-42）。これら有意差の出た項目から考えると、学生が自分自身の感情をコントロールし、また内的な自己に目を向けている姿勢をうかがうことができる。また、側面Ⅲは、先述したように学校教育で直接的に形成される具体的な形での学力であり、自立的な学習を進めていく土台である。この1年間をとおして、実習や講義などで他者とのディスカッションでの学び、また実習などで要求される目的に沿った評価の視点を養うなど学習の成果がうかがえる。側面Ⅳは、先述したように自信を持っているかどうか、心理的に安定しているかどうかによって人は主体的であるかどうか決定される。今回有意差があった項目から、学生が自分自身に持つ肯定的な感情をうかがうことができた。しかし、一方で有意に低下した項目をみると、側面Ⅰを構成している「6. 社会に出てからよい仕事をし、多くの人に、認められたい」、側面Ⅲを構成している「21. 自分の調べたいことがある時に、図書館（室）を利用している」であった。「6. 社会に出てからよい仕事をし、多くの人に、認められたい」がでてきたことは、職業人としての自分の将来像をイメージできていないか、または職業選択がはっきりできていないか、あるいは目標を喪失している可能性もあると推測できる。また、「21. 自分の調べたいことがある時に、図書館（室）を利用している」が有意に低下した原因として、実習時間と図書館の利用時間との関係が推測できる。1年次実習は、3・4時限目（13:00～16:10）であったが、2年次実習は、4・5時限目（14:40～17:50）となっていた。また、新学期の4月から5月10日までの期間は、図書館の利用時間は、9時～18時までとなっていた。また、講義が実習を含め、1時限目から5時限目まで入っており、こうした時間的な背景もあって、図書館の利用が低下したことは否めないと考える。以上のことから、学生の職業に対する意識のあり方や目標喪失に結びつくものの動向、また講義時間という制約の中で、学生が抱く疲労感やストレスと講義や実習との関連についても、今後十分に目を向けていく必要がある。

看護学科では、側面別では側面Ⅳ。「自信・プライド・安定性」が有意に上昇した。また、項目別で

は、側面Ⅲを構成する項目である「27. 自己評価する時には、自分の目標にてらして行っている」、「28. 自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく習慣がある」、側面Ⅳを構成する項目である「37. 自分のやる事に自信を持っている方だと思う」、「39. 今の自分に満足している」が有意に上昇した。側面Ⅲに関しては、衛生技術学科同様に、この1年間で、実習などでカンファレンスを体験したことや実習そのものが自己評価をし、自己を振り返ることになっており、適切な評価の仕方や自己評価の視点ができ、文献等を用いるなど理論的な思考の機会を得たと考える。また、側面Ⅳ。「自信・プライド・安定感」が有意に上昇したことは、実習での経験など1年間で自信をつけた面があったと評価できる。また、有意に下がった項目は、今回の実習前後と同様に側面Ⅲを構成する項目である「26. たとえ話などをもちいて人にわかりやすく、説明するのが苦手である」（逆転項目）であった。これは先述したとおりであるが、小山¹⁰⁾が臨床看護師に行った調査においても、この項目は低い得点であったと報告があり、このことは、単に学生だからということではなく、対人援助に携わる者の抱える悩みとも推測できる。これらは、単にマイナスというだけではなく、工夫や自己学習意欲にもつながるプラスの面も持ち合わせており、こうした点も今後注意して経過を追う必要がある。

側面Ⅳ。「自信・プライド・安定感」は、他の3つの側面全てを一人の人格の中に落ち着かせ、安定した土台の上に立っての前進を可能にする心理的基盤としている（梶田、自己教育への教育、p.36）。側面Ⅳは、看護学科では有意に上昇した。西谷³⁾が報告したとおり、先行研究では実習後に側面Ⅳは上昇したり低下したりしている。今回の衛生技術学科は調査の時点の違いで、有意差はないものの、上昇あるいは低下している。しかし、この1年の推移でみると、衛生技術学科においても、平均点は上昇している。こうした点から、単に調査結果だけでは論じることができないが、今後も学生が心理的安定のもとに学びができるようこうした点も推移を見守る必要がある。小山¹⁰⁾は、自身の調査において側面Ⅳが低かったことについて、院内教育計画を見直し、主体的に学ぶ意欲が高められ、達成感が実感できるような教育環境を整えていく必要があると述べている。本学はまだ開学して1年しか経っておらず、

小山が言うこうした評価をするには早計であるが、学生が主体的に学ぶ意欲を高め、達成感が実感できるような教育環境を整えていく必要は同様にある。今後も調査を重ね、有用な情報から学生の教育支援のあり方を考えると共に、学生の自己教育力の育成に取り組む必要がある。

Ⅶ. ま と め

本学2年次に在籍する学生の自己教育力を検討するために、2年次4月～5月に行われた実習前後に自己教育力調査を実施した。その結果と1年次に行った調査結果を含め検討した。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 1年次実習後調査と2年次実習前調査の比較において、両学科とも側面別比較では有意差はなかった。項目別では、衛生技術学科で側面Ⅲの「29. わからないことがあると、すぐに人に聞くのが効果的だと思う」が有意に低下した。
2. 2年次実習前・後の比較において、側面別では、看護学科において側面Ⅰ。「成長・発展への志向」が有意に低下した。また、項目別の比較では、衛生技術学科において側面Ⅳの「31. 今のままの自分ではいけない、と思うことがある」(逆転項目)、「38. 生まれかわるとしたなら、やはり今の自分に生まれたい」が有意に低下し、看護学科においては側面Ⅲの「26. たとえ話などをもちいて人にわかりやすく、説明するのが苦手である」(逆転項目)が有意に低下した。
3. ほぼ入学後1年間の推移としての1年次実習前調査と2年次実習後調査の比較においては、看護学科の側面Ⅳ。「自信・プライド・安定感」が有意に上昇した。項目別の比較では、衛生技術学科においては、側面Ⅱの「11. 自分のよくないところを自分で考え直すよう、いつも心がけている」、 「12. 自分の考えや行動が批判されても腹を立てない」、側面Ⅲの「24. 考えを深めたり、広げたりするのに話し合いや討議が有効であると考えている」、 「27. 自己評価する時には、自分の目標にてらして行っている」、側面Ⅳの「35. 自分のことを、はずかしいと思うことがある」(逆転項目)の項目が有意に上昇した。また、側面Ⅰの「6. 社会に出てからよい仕事をし、多くの人に、認められたい」、側面Ⅲの「21. 自分の調べたいこと

がある時に、図書館(室)を利用している」の項目が有意に低下した。一方、看護学科においては側面Ⅲの「27. 自己評価する時には、自分の目標にてらして行っている」、 「28. 自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく習慣がある」、側面Ⅳの「37. 自分のやる事に自信を持っている方だと思う」、 「39. 今の自分に満足している」の項目が有意に上昇した。また、側面Ⅲの「26. たとえ話などをもちいて人にわかりやすく、説明するのが苦手である」(逆転項目)が有意に低下した。

本研究の限界

本研究は、入学後約1年を経過した本学の学生に対して行った研究であり、一般化することはできない。また、調査も単一の調査用紙を用いて行っているため、有意差が出た項目に関しては、縦断的に経過を追っていく必要があると同時に、この調査用紙では追うことのできない点については、別の調査を行うなどの必要がある。

謝 辞

本調査に快くご協力いただきました2003年度熊本保健科学大学の入学生の皆様に深謝いたします。

尚、この研究は、平成15年度および16年度熊本保健科学大学特別研究費の助成を受けて行ったものである。

引用文献

- 1) 森田敏子, 松永保子, 波多野文子: 達成動機と自己教育力. *Quality Nursing* 10 (3): 78 - 82, 2004.
- 2) 梶田叡一: 自己教育への教育. 明治図書, p38, 1985.
- 3) 西谷美幸, 永田華千代, 徳永郁子, 他: 自己教育力の動機づけとその効果 - 自己教育力研究会の設立と概要. *保健科学研究誌*, 1: 97 - 103, 2004.
- 4) 梅橋操子, 多久島寛孝, 三村孝俊, 他: 基礎実習前後における自己教育力の変化. *保健科学研究誌*, 1: 105 - 112, 2004.
- 5) 前掲2) p50 - 52.

- 6) 西村千代子, 奥野茂代, 小林洋子, 他: 看護婦の自己教育力—自己教育力測定尺度の検討—, 日本赤十字幹部看護婦研修所紀要, 11, 22-39, 1995.
- 7) 北みゆき: 看護学生の看護専門学校入学以前と入学後の学習状況の変化および自己教育力との関連, 第31回日本看護学会論文集—看護教育—, 48-50, 2000.
- 8) 大橋富士子, 衛藤英子, 菊池恭子, 他: 看護学生2年生の自己教育力の構造とそれに影響する因子—同一学生の縦断的調査より—, 第28回日本看護学会集録—看護教育—, 121-124, 1997.
- 9) 本田英子, 衛藤英子, 大橋富士子, 他: 看護学生の自己教育力に影響する因子—学習方法の視点から—, 第27回日本看護学会集録—看護教育—, 146-148, 1998.
- 10) 小山久子: 自己教育力と職務満足の向上に影響を及ぼす目標管理, 看護管理, 14(7), 540-546, 2004.

(平成17年1月24日受理)

多久島寛孝, 永田華千代, 北野正文, 三村孝俊, 内山久美, 梅橋操子, 大澤早苗, 嶋田かをる, 亀山亜弓, 古賀和子, 川本起久子, 山口裕子, 吉田一子, 弓掛和恵, 西谷美幸, 田中英子, 古庄富美子, 山本勝則, 井上悦子

〒861-5598 熊本市和泉町325番地

熊本保健科学大学

保健科学部 看護学科

保健科学部 衛生技術学科

Changes in the Self-Directed Learning of University Healthcare Students

Hiroataka TAKUSHIMA, Hanachiyo NAGATA, Masafumi KITANO, Takatoshi MIMURA,
Kumi UCHIYAMA, Misako UMEHASHI, Sanae OSAWA, Kaoru SHIMADA,
Ayumi KAMEYAMA, Kazuko KOGA, Kikuko KAWAMOTO, Yuko YAMAGUCHI,
Ichiko YOSHIDA, Kazue YUMIKAKE, Miyuki NISHITANI, Eiko TANAKA,
Fumiko FURUSYO, Katsunori YAMAMOTO, Etsuko INOUE

Abstract

In order to ascertain changes in the self-education of university healthcare students two years after admission, a self-directed learning survey was conducted before and after first-year and second-year practicum. Survey findings were compared between the following paired time points: 1) after first-year training and before second-year practicum; 2) before and after second-year practicum; and 3) before first-year practicum and after second-year practicum. The results clarified the following:

- 1) Comparison of survey data from after first-year practicum and before second-year practicum, for both sanitation technology and nursing students, demonstrated no significant changes in the four aspects of self-directed learning: I. motivation in self-growth development, II. self-assessment and self-control, III. skills and foundation in learning, and IV. confidence, pride and stability.
- 2) Comparison of data from before and after second-year practicum, revealed no significant changes in the four aspects for the medical technology students, but a significant decrease in "I. motivation in self-growth development" was observed in the nursing students.
- 3) Comparison of before first-year practicum and after second-year practicum, revealed no significant changes in the four aspects for the medical technology students, but a significant increase in "IV. confidence, pride and stability" was identified in the nursing students.
- 4) An analysis of the items included in the four aspects revealed significant changes in some of the items for both medical technology and nursing students.